

## 表彰式

2019年10月26日、立命館大学歴史都市防災研究所カンファレンスホールにて表彰式を開催しました。入賞者には、表彰状と、各協賛・後援企業、団体から副賞（最優秀賞：防災グッズ・防水機能付デジタルカメラ・今治タオル他、優秀賞：防災グッズ・住宅用煙感知器他、入選：地球儀・防災リュックサック他、佳作：地図帳・防災ポーチ他）および参加賞（文具セットや飲料水他）が贈呈されました。続いて、審査委員から作品紹介と講評を行い、入賞者からは作品のテーマや工夫した点など発表いただきました。表彰式は、入賞者、ご家族、協賛・後援企業様、学外審査委員、本学関係者が参加し、和やかな雰囲気の中で終えることができました。



表彰式 最優秀賞授与



副賞授与



テープカット

## 応募者の声

- 安全と思っていた所が危なく感じたり、地域の方の協力などがあり整備や設置された物にも気づけた。
- 子供が毎日通学する道という事で、少しは危険と感じている場所があると思っていたが、大人が考えている程、危ないと感じていない事に初めて気付いた。
- 防災整備、施設とも不十分であること、家族での決め事や教育、地域ぐるみでの教育が必要であると強く感じた。
- 大人と子供の感じ方（見え方）の違いを理解し、相互の意見を話し合う事で、より分かり合えるようになる。
- 昔から地域で活動していることなど、改めて大事に思った。

## 出張授業

「子ども達にマップの作り方や防災の講習をして欲しい」という小学校や団体からのご要望にお応えし、歴史都市防災研究所では出張授業を実施しています。2019年は広島県福山市立神村小学校からご依頼を受け、当研究所の教員等（村中准教授、石田研究員、酒井研究員、米島客員研究員、谷端客員研究員）が12月13日に防災授業を、また12月18日にマップの作り方講習会とフィールドワーク、マップ作成を実施しました。防災授業では6年生の児童約70名に、①土砂災害の発生の仕組みや、何故広島県で土砂災害が多いのか、②地形の成り立ちと土地利用や災害との関係について、各45分の授業を行いました。フィールドワークでは、5名で1班を構成し、14班を4グループに分けて、研究所教員等5名と神村小学校の先生4名が付き添い、小学校の周囲の危険箇所や地域の良いところを調査しました。また児童の防災への理解が深まるように、要所のポイントでは実物を見ながら教員等が災害や土地利用の解説を行いました。子どもたちは地図を持っていき、自分が見つけた危ないポイントやどうしてそう思ったか等をメモして、学校に帰ってから調査で分かった情報を整理し、班ごとにマップを作成しました。出来上がったマップは、調査で気付いたこと、分かったこと等の発表とともに、学年末の参観日に保護者や地域の方に見ていただく予定です。

当研究所では、神村小学校にご協力をいただき、今年度出張授業をモデルケースとした総合学習の時間に実施できる防災授業のパッケージ化を推進しています。フィールドワークの要所での解説は、次年度以降に着任されたどの先生にもお使いいただけるよう、地図と写真を併記したテキストにしました。地域や小学校毎に特色が違うのでアレンジは必要ですが、ベースとなるマニュアルを作成することで、これまで防災教育に携わったことのない先生の参考書として、マップ作りを通じた防災教育に取り組むきっかけにいただければ、と考えています。



フィールドワークの様子

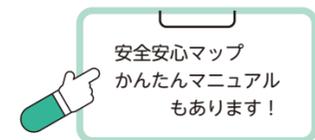


教室での授業風景

お気軽にご相談・お問い合わせください。

立命館大学 歴史都市防災研究所 事務局  
〒603-8341 京都市北区小松原北町58番地  
TEL：075-467-8801 / FAX：075-467-8825  
E-mailアドレス：rekibou@st.ritsumeai.ac.jp

コンテスト特集ページ：<http://www.r-dmuch.jp/jp/project/mapcontest/index.html>  
開催日/月～金 9時30分～17時00分 [土・日・祝および休館日除く]



# 第13回 みんなでつくる地域の安全安心マップコンテスト

## The 13th Children's Map Contest for Community Safety

# 事業報告

豪華な賞品ももらえるよ!!

地図を作って夏休みの宿題にしてもいいね!

立命館大学歴史都市防災研究所では、小学生を対象として地域の安全安心への関心を深めてもらうことを目的に、2007年から「地域の安全安心マップコンテスト」を毎年開催しています。この事業は、小学生、保護者、ご家族、地域住民、教員など子供と大人と一緒に地域を調べ、マップを作成しながら地域の安全安心を考えてもらえるよう、大学の社会貢献活動の一環として取り組んでおります。今年も多くの方々に支えられて13回目を迎えることができました。この場を借りて心より御礼申し上げます。なお、本紙において第13回の事業内容をご報告させていただきます。皆様の日頃のご活動や今後のマップ作りの一助となれば幸いです。

## 第13回「みんなでつくる地域の安全安心マップコンテスト」概要

2019年8月19日から9月27日までの募集期間に、全国から47点（個人46点、グループ1点）の応募があり、総勢53名の小学生に参加いただきました。応募地域は、京都府をはじめ、宮城県、静岡県、新潟県、石川県、三重県、大阪府、広島県、長崎県と全国各地に及びました。魅力的な作品が多く、審査にはかなりの時間を要しましたが、9名の審査委員による厳正なる審査の結果、最優秀賞1点、優秀賞1点、入選3点、佳作5点の入賞作品10点を選出いたしました。また、今年も入賞作品のうち6作品を国土交通省国土地理院主催の「第22回全国児童生徒地図優秀作品展」へ推薦し、その作品集に掲載されました。

主 催：立命館大学歴史都市防災研究所  
協 賛：株式会社パスコ、フレントリース株式会社、株式会社帝国書院、第一通商株式会社、株式会社ネスト・ジャパン、NPO法人災害ボランティアステーション日本、マツモト産業株式会社、株式会社宝水、セコム株式会社、株式会社柴橋商会、能美防災株式会社（順不同）  
後 援：国土地理院、ココヨマーケティング株式会社、京都新聞、KBS京都、京都市、公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター、一般社団法人人文地理学会、立命館地理学会、京都府警察（順不同）

最優秀賞

4年生・京都府京都市



おじいちゃんの家からどこに逃げればいいのか? ~くらべてみよう可児市と京都市~

応募者のコメント

私が生まれた年に祖父の家で急な豪雨があり短時間で川や道路に水があふれ避難できなかったという話を聞きました。私の住む京都市は住宅が密集しており、大地震や大規模火災が起きると大きな被害につながりやすく、祖父の家がある岐阜県可児市では山や川が多く、大雨が降ると土砂崩れや川の氾濫が起きやすい事がこの地図を作ることによりわかりました。普段から危険な場所を確認して、もしもの時は早めの行動が大切だと思います。

講評

いつどこで自分自身や家族が災害にあうかわからないため、今住んでいる地域以外にも防災の目を向けることは大事である。自分の居住地とおじいちゃんの家のある2つの地域を比較して防災を考える視点がよい。作品の作りが丁寧で、多くの情報をうまくまとめており、絵やレイアウトなどの表現力に優れ、完成度が高い点を評価した。



国土交通省国土地理院主催  
「第23回全国児童生徒地図作品展」にて、「奨励賞」を受賞しました。

優秀賞

5年生・広島県広島市



市役所前交差点 信号守っていますか?

応募者のコメント

僕が、下校時に車が赤信号で走ってきてぶつかりそうになったことがあり、この交差点で交通規則が守られているか調べることにしました。地図を分かり易くするため、上から見た地図を書きました。また正確なデータを集めるため、カウンターを使って父と同じ時間・場所で調査しました。平日は通勤の人が多く、慌てている人が多かった気がします。皆が少し早く家を出て時間にゆとりを持ったら、事故が減るのではないかと思います。

講評

交差点に着目し、利用者の行動から安全について考察した作品で、調査も丁寧に行われ、3Dにするなど見せ方の工夫も評価した。

入選

3年生・石川県加賀市

わたしの町歩行者用信号ちょうさマップ



応募者のコメント  
小学校までの通学路に、押ボタン信号があります。青になって渡りますが、わりと早くチカチカめつします。近くには、スーパ―もあってお年寄りもよく利用する信号です。いったいどれくらいの時間で赤信号になるのか、その他は

講評

歩行者信号の点灯時間を丁寧に計測し、急いで渡る必要があるポイントを見つけ、視覚化している。50m走のタイムから分析した点もよく、視点がユニークでオリジナリティが高いところを評価した。

入選

2年生・京都府京都市

雨水どこに行くの? 烏丸お池 水たまりMAP



応募者のコメント  
二年前に、すんでいるマンションの入口が大雨の後にしん水をして、エレベーターがとまりました。そこで雨水がどこにながれて行くのかを、しらべることになりました。大雨がふったらすぐに外に出て、どこにながれたり、

講評

テーマがユニークで、豪雨の直後にしか調べられない水たまりをマップにしたところ、表現力や情報量の適切さを評価した。排水不良から災害にまで結び付けられるとなお良い。

入選

5年生・三重県津市

命が助かるハザードマップ



応募者のコメント

このマップを作った目的は、南海トラフ地震等が発生した時、地域の人が安全に避難できるように作成しました。津市災害歴を調べて津波が来ない海拔について考えました。地域にある海拔表示は、実際には測っていないことが分かったので、地域の水準点と近くの海拔表示と比べて、より正確な海拔を判断し、また、海拔表示のない所は、国土地理院の電子国土Webで調べました。このマップを活用し

てみんなの命が助かるといいと思います。

講評

災害に関する歴史的な調査や高齢者の疑似体験など、データの調査だけでなく、実地調査も丁寧に行った点を評価した。

佳作

3年生・広島県広島市

自転車に乗る子供のための交通安全MAP ー子供の目線とドライバーの目線からー



応募者のコメント

私の住んでいる地域は古くからの住宅地なので、狭い路地に住宅が密集していますが、市街地にあるため、たくさん車が通る道があります。自転車にのっていると車にぶつかりそうになります。狭い路地では、駐車場から車を発進するときに、かべや植木などが邪魔になって、車を少し進めないと、左右の安全かくなることがあります。なので、私がよくいくところで、ドライバーが、きけんな場所を知ってじこをおこさせないようにやくだててほしいです。

講評

子供とドライバーの異なる目線で交通事故のリスクを調査し、地図にしたオリジナリティを評価した。

佳作

4年生・大阪府大阪市

ぼくの防災マップ



応募者のコメント

大阪府北部地震の時、ぼくは何もできませんでした。大地震や津波がいつ起きてどのように安全に避難できるのか、自分が住んでいる町、行動する範囲を実際に歩いて調べて防災マップを作りました。防災マップは安全な避難場所、設備をシールや色ペンで色分けしたり、写真を貼って分かりやすく工夫しました。このマップを色んな人に見てもらうことで自然災害が起きた時に落ち着いて行動ができる助けになればうれしいです。

講評

既存の資料を上手に活用し、自分で1つ1つ確認して、多くの情報をうまくまとめ上げた。調査で気付いたことや、自分用に災害時の必要なものをアレンジした点も良い。

佳作

3年生・広島県広島市

ボクの町の昼夜変ぼうMAP



応募者のコメント

習い事などで夜道を自転車で移動することが増え、昼間とのちがいが気になったので調べてみようと思いました。結果、昼間は快適な公園や土手も、木もれ日や植物が美しい山道も、夜になると街灯もなく、おそろしくて近寄れないほど変ぼうする場所があることに驚きました。一方、人通りが多く見通しのよい場所も発見できました。昼夜をなるべく同じ構図で撮影すること、細かな気付きも地図に書き込むことを心がけました。

講評

テーマが明確で、昼と夜を比較して安全性が異なることを調査した点が良い。「夜は明るい道を選べ」という副タイトルの答えとなる、夜も明るい道が分かりやすく示されているとなお良い。

佳作

3年生・広島県広島市

安全マップーひなんルートを歩いてみたらー



応募者のコメント

わたしが、このマップを作った理由は、夜にひなん場所の小学校まで歩いて行けるか調べておこうと思ったからです。歩いてみて分かったことは、夜の小学校へ行く道は、外とかがない暗いところが多くて、とてもこわくてきけんなので、その時は家でひなんした方がよいことが分かりました。もし、今までより大きな台風が来てひなんすることになった時は、このマップが役に立つと思います。今回入賞できてとてもうれしいです。

講評

昼と夜に実際に避難ルートを歩き、道路の状況を比較し、考察した点を評価した。区役所でもらったアドバイスや、作った地図を元に家族と話し合っ避難方法を決めた点も良い。

佳作

3年生・広島県広島市

安心・安全 宇品のいいところサイクリングマップ



応募者のコメント

僕がこのテーマでマップを作った理由は二つあります。一つ目は、3年生になって一人で自転車で乗り出かけるようになったこと、二つ目は学校の地区会で宇品の歴史を学び、みどころを沢山知りたくなったこと、思っていたからです。マップを作るために実

講評

際に自転車で実際に宇品を回って危険な場所や安全な道を細かく知ることができとても役に立ち、夏のサイクリングは暑かったけど楽しかったです。